

Q1 内水浸水想定区域図の公表が必要なのですか？

A：想定以上の大雨が降った際に、地域の水害に対する危険性を知らせることで、市民の防災意識が高まり、早期に避難することで人的被害を軽減することを期待して公表する。

Q2 内水浸水想定区域図と洪水ハザードマップの違いは何ですか？

A：内水浸水想定区域図、洪水ハザードマップとともに、浸水に対して円滑な避難行動や平常時からの防災意識の向上に活用されるものです。内水浸水想定区域図は、下水道や水路等の雨水排水能力を上回る大雨が降り、排水施設の能力不足により雨水を排除できないために発生する浸水を示したものです。

一方、洪水ハザードマップは、主に河川の堤防の決壊や河川から溢れた水により発生する浸水を対象としており、河川が氾濫した際に浸水が想定される区域を示したものです。

Q3 今まで浸水したことがないところが浸水することになっていますが、間違っていないですか？

A：過去に浸水していない場所でも、これまでに経験したことのない大雨が降った場合には、浸水する可能性があります。また、内水浸水想定区域図の降雨による浸水と、過去の浸水実績とは、雨の降り方、河川の状況、土地利用の状況（雨水の流出しやすさ）等が過去の降雨とは異なる場合があるため、今まで浸水したことがない区域でも浸水する可能性があることを表しています。

Q4 過去の浸水実績や被害は反映されていますか？

A：唯一、広範囲の記録が残っている平成29年7月14日の降雨時の浸水実績等を用いて、シミュレーションを実施しています

Q5 内水浸水想定区域図は、河川の氾濫は考慮されていますか？

A：河川の堤防が壊れて氾濫することによる影響は考慮していません。



出典：
内水浸水想定区域図作成マニュアル（案）P5

Q6 想定最大規模降雨とはなにですか？

A：1年の間に発生する確率が1000年に1回（0.1%）程度の降雨のことです。美濃加茂市の想定最大規模降雨は、国土交通省による中部地方の基準値の1時間最大147mmとしています。

Q7 最も深い浸水はどれくらいですか？

A：西町の国道21号のアンダーパスが、周囲に比べて低いことから浸水深の結果として、約7.0mです。（実際は道路施設のポンプにより排水ができますが、今回の解析手法では、その排水する能力を考慮していません。）

Q8 内水浸水想定区域図はどこで閲覧できますか？

A：美濃加茂市のホームページ（上下水道課）で閲覧できるように公開中です。

Q9 指定した区域が、市内の一部なのはなぜですか？

A：想定最大規模降雨により公共下水道等の排水施設の能力を上回った場合に浸水が想定される区域を指定するものであるため、下水道計画区域を対象としています。なお、下水道区域以外でも水の流れを解析するために必要な範囲は含めています。

Q10 内水浸水想定区域図の更新はしますか？

A：下水道（雨水排水）の整備状況に応じて浸水想定区域図の見直しをする予定です。
※5～10年程度で見直しをしていきます。

内水浸水想定区域図 (雨水出水浸水想定区域図) について

内水浸水想定区域図とは

「大雨時に下水や排水路など雨水を排除する施設から水があふれて内水氾濫が発生した場合の浸水想定を表示した地図」です。

雨水出水浸水想定区域図(想定最大規模)は、水防法第14条の2第2項の規定に基づき作成されており、想定し得る最大規模の降雨に伴う雨水出水により内水氾濫が発生した場合に想定される浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。

なお、本市の下水道施設の整備目標として定めている計画降雨(5年に1回程度の頻度で発生する降雨)は1時間雨量51.8mmであり、想定し得る最大規模の降雨はこれを大幅に超えるものです。

浸水想定区域図作成の目的

想定以上の大雨が降った際に、地域の水害に対する危険性を知らせることで、市民の防災意識が高まり、早期に避難することで人的被害を軽減することを期待して公表する。

浸水想定区域の指定は水防法により、「市町村長は河川その他の公共の水域若しくは海域に雨水を排除できなくなつた場合に浸水が想定される区域を雨水出水浸水想定区域として指定するものとする。」とされています。

水防法第14条の2第2項

市町村長は、当該市町村が管理する次に掲げる排水施設について、雨水出水時の円滑かつ迅速な避難を確保し、又は浸水を防止することにより、水災による被害の軽減を図るため、国土交通省令で定めるところにより、想定最大規模降雨により当該排水施設に雨水を排除できなくなつた場合又は当該排水施設(第一号に掲げる排水施設にあつては、第十三条の二第二項の規定による指定に係るポンプ施設又は貯留施設に接続する排水施設を含む。)から河川その他の公共の水域若しくは海域に雨水を排除できなくなつた場合に浸水が想定される区域を雨水出水浸水想定区域として指定するものとする。

シミュレーションに用いる雨量

名称	項目	降雨強度(mm/h)	備考
内水浸水想定区域図 (計画規模) ※5年確率	計画降雨 (L1)	57.0	5年確率降雨 (51.8mm/h) × 気候変動1.1倍
内水浸水想定区域図 (既往最大降雨規模)	既往最大降雨 (L1')	89.5	美濃加茂市のH29.7.14実績 89.5mm/h (毎正時の最大降雨量は81.5mm/h) ※8:40~9:40頃に89.5mm/hを記録
雨水出水浸水想定区域図 (想定最大降雨)	想定最大降雨 (L2)	147.0	中部地方の基準値 (1km ² 以下の1時間総雨量) ※1000年に1回 (0.1%) 程度の降雨

過去の降雨実績（アメダス美濃加茂観測所）

降雨		時間最大雨量 (mm/hr)	日最大雨量 (mm/hr)	浸水地区	備考
平成26年7月9日	集中豪雨	14.5	15.5	下米田今地区	道路冠水
平成29年7月14日	集中豪雨	87.5 (89.5) ※1	128.5	太田町北町	床上浸水、床下浸水
令和3年7月14日	集中豪雨	84.5※2	108.5	太田町北町	床上浸水、床下浸水
令和5年6月30日	集中豪雨	26.5	62.5	太田町北町	道路冠水

※1、※2 気象庁10分間データより算定
平成29年7月14日の気象庁発表では、時間最大89.5mm/hrとして発表されている。

解析方法（簡易モデル）

○簡易モデルによる氾濫解析

地表面モデル上に降雨データを直接与え、平面2次元氾濫解析を行う。

○適用条件

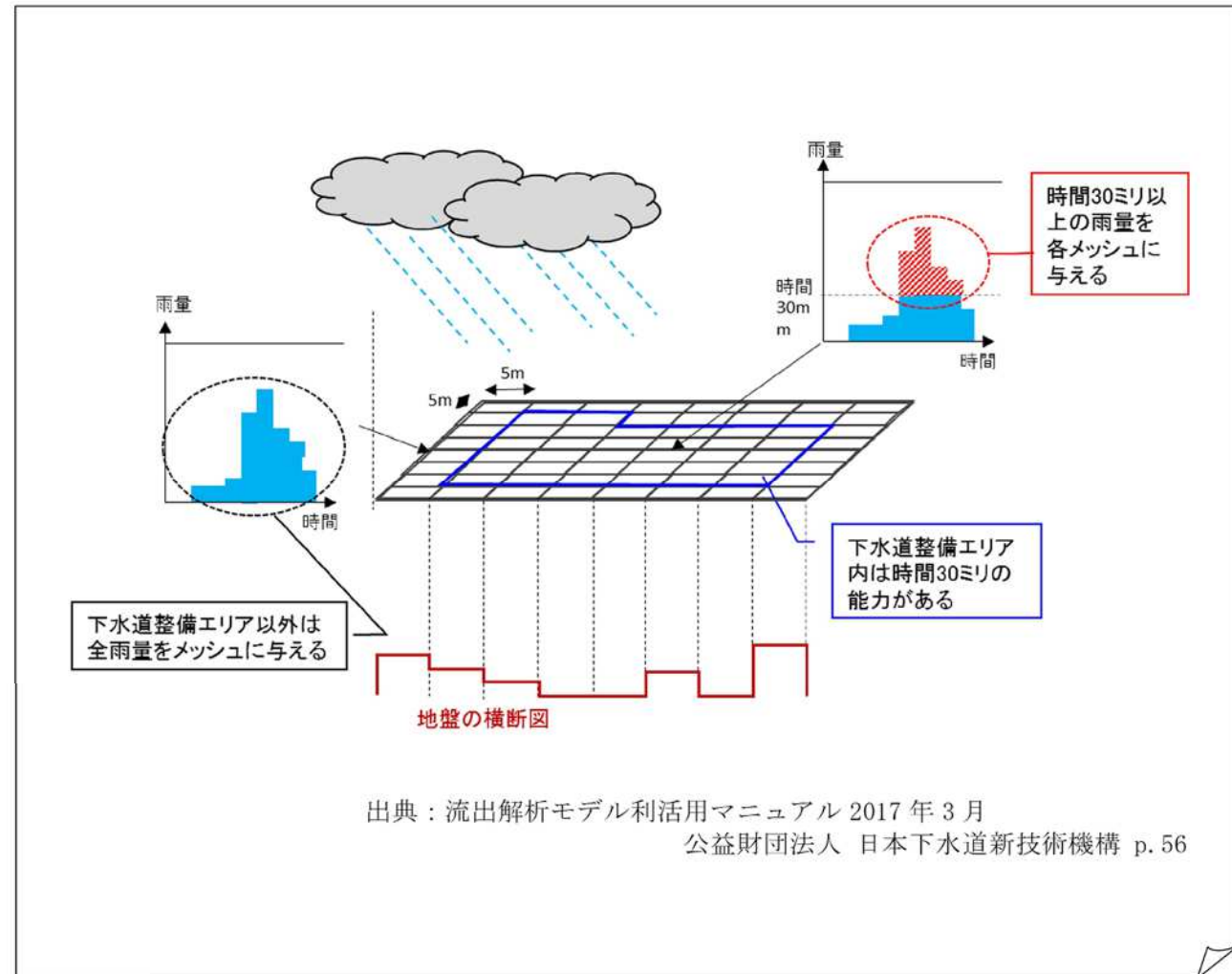
現況施設情報を十分に把握できない、または測量調査に多大な費用や時間を要する。

○留意点

浸水面積や浸水深が過大に表現される可能性がある。

下水道施設による氾濫水の取り込みを計算しない。

簡易モデルの概念図



浸水深の表示

浸水深等	詳細版
20m ~	220,122,220
10m ~ 20m	242,133,201
5m ~ 10m	255,145,145
3m ~ 5m	255,183,183
1m ~ 3m	255,216,192
0.5m ~ 1m	248,225,166
0.3m ~ 0.5m	247,245,169
~ 0.3m	255,255,179

出典：内水浸水想定区域図策定マニュアル（令和3年7月）